

佐藤春夫氏は 歩きながらの中で「肉体が尊いものである以上は、病気という事もそれ自身既に罪悪である筈だ」という表現をしている。死に方も色々あり、思いも色々です。私はこの身は仏身であるから病は与えられた修行であると考えます。修行であるために修行を全うすれば悟りを得るが如く治癒し、挫折すればそれで終わりと言う事でもあり、病も佛からの修行体系の一つと考えています。病は気からと申します。益軒曰く **起れば氣上がる、喜べば氣緩まる、悲しめば氣消ゆ**」と、松原泰道上人は **氣は人間の心身の活力で、人体を守り生命を保つ方**のことである。また氣は人間の感情や、心の衝動の素となる」と、また、養生とは預かり物としての自分を丹精するだけでなく、身体から切っても切り離すことのできない心をも同時に丹精することである」とも、因みに大隈重信師の**健康五カ条は 怒るな・愚痴をこぼすな 過去を顧みるな・望みを将来に・人のために善をなせ**」でした。人は夫々ですが心身の健康を願わない人は無いと思います。この身清浄とは健康体の事です。沢庵禅師の玲瓏集 市川白弦師訳) によれば 報いということは、此の世でよいことをすれば、来世により報いがくるし、悪いことをすれば、悪い報いがくる。善因によって善果を得、悪因によって悪果を得ること、響きが声に応じ、影が形によりそうようなものである。一生のうちに行 った因が、その一生が終わったのちに果を得るのは当然である。現在の因が現在の果となり、過去の因が現在の果となり、さらに現在の因が未来の果となるというように、**前世、後世にわたって、遅かれ早かれ、のがれることはできない**。また、因と果とは同時だともいわれる。花を因にたとえ、実を果にたとえた場合、瓜などは花が咲いているとき、すでに実もできている」と、以前にも御話しました様に**善悪は三業 身・口・心意**が作り出す結果なのです。三業に起因する結果が善の花を咲かせるのか、悪の花を咲かせてしまうのか、故に人間の 一生は先月お話しした通り幼少期の教育にあります。子供の教育には仏教の教え三業が織り成す善と悪をしっかり教えなくてはいけないのである。知識ばかりを強要し、ずる賢い自己中の人間を作ってしまうと、後々取り返しがつかなくなる可能性大なるものがあります。六根が三業に因って動き結果六道の一つに落ち着く事に成ります。

抜隊禅師の 塩山仮名法語」 杏田紹欽師訳) に「**一心は眼・耳・鼻・舌・身・意の六根の中心をなすものとも言い得ることから、迷える人々が六道を輪廻転生するものを地蔵菩薩が六道に立ってそれらの人々を教化するに托して地蔵菩薩といったのである**」。又、多くの罪悪を犯す根本は迷情によってであり、この迷情を消滅するには悟るしかない。人々の身中に**眼・耳・鼻・舌・身・意の六根を具していて、それらが貪・瞋・痴の三毒を起因にして三悪道 地獄・餓鬼・畜生**に堕ちるので要注意。閻魔大王は地蔵菩薩の化身です。㊦を押して頂く**六道巡りは二十四日**です

四月一日

善壽界善人院油掛地蔵尊